

# 3年生 女子5名 授業中に無断自慰

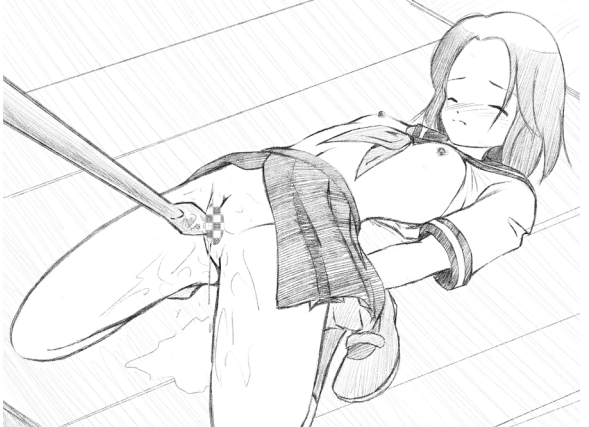
## 女子生徒全員のアソコを教鞭指導

### 自慰生徒を一斉検挙

三年生女子生徒五名が、授業中に勉学に集中せず、オナニーにふけっているという疑惑が上った。今回、クラスの男子生徒より、三年生女子生徒が、授業中自慰行為をしているという事実が告発されたのである。事態の確認のため、三年生の授業中、椅子のパイプを常に微振動させて様子を観察したところ、女子生徒五名全員が、下半身に伸ばしたり、腰を揺すったりといった自慰行為もしくはそれに準ずる行為をしていることが確認された。担当教師の手により、その場で女子生徒は全員、無断自慰の現行犯で検挙され、即座に教師による指導がなされた。

先日より、三年生の男子生徒から、「クラスの女子生徒たちが、最近授業に集中できていない」という報告が教職員に届けられていた。その報告によると、女子生徒たちは、授業中自慰行為に及び、椅子のパイプを指でいじったり、腰を揺すったりして椅子のパイプを使っているとのことだった。事の真偽を確かめるために、昨日、女子生徒が座っている椅子についたパイプレターを授業中、連続振動モードで起動させ、常に微振動を続けるようにした。すると、女子生徒が、皆、授業中に腰を揺すったり、手を股間に伸ばして局部をさすったり、腰を細かく揺り動かしたりして、明らかに授業に集中できていないオナニーにふけるという様子が確認された。

授業中に勉学に集中せず、無断で自慰行為に及んだ女子生徒に対し、担当教師は即座に彼女たちを喚挙し、指導することとした。その際、生徒会長の結衣ちゃんや、生徒会長特権により、処罰の不当性と指導事項の不合理性を理由として処罰の撤回を求めた。生徒会長特権によれば、男子生徒に対する拒否権のほか、教職員に対しても、条件つきながら一部、異議申出が認められている。ただし、男子生徒に対する拒否権はその場で即座に効力を発揮することができ、教職員に対する意義申告については、その場で認められない場合には、職員会議による議決を待たなければなら



写真：教壇でアソコを突き上げ教鞭で指導される真帆ちゃん

ない。今回、担当教師は結衣ちゃん、本来であれば職員会議への提出となるところであるが、それが受理されるまでの間は、教師による指示が優先される上に、結衣ちゃん自身も、今回処罰の対象とされたため、職員会議への申請手続きもできなかった。担当教師は、女子生徒全員を教壇の上に、膝を曲げた仰向けで並べた。その状態で両手を背中に組ませると、反省を促すために、セーラー服をめぐり上げて胸を晒し、スカートのスリットを左右に分けて、股間の割れ目を覗き出した。五人の女子生徒全員をそのような状態にさせた後、担任教師は、ひとりひとりの淫尿に教鞭を挿し入れながら、授業中に何をしていたのか尋問した。その結果、全員が自慰もしくはそれに準ずる行為に及んでいたことを自供した。その理由として、「一週間前に性器に塗られた媚薬の効果が残っており、常に疼いてしまっていた」と、また、「パイプレターが常に振動し続けたため、なとも我慢できない状態ではなかった」となど

が挙げられた。しかし、「以前塗布した媚薬と、今回の自慰行為に因果関係があるとは認められない」と、「授業中にパイプが連続振動することにより、自慰をすることの理由にはなり得ない」と、仮にそれらの理由により性欲が高まったとしても、「聖女学園の最上級生として、二年生には慣み深く振る舞う責務があり、授業中に自慰をするなど、もってのほかである」と、担当教師より告げられた。

各自の反省を促すとともに、以後の授業に集中できるようにとの配慮から、教壇の上で仰向けになって腰を突き上げている女子生徒は、自ら腰を振って、担当教師が差し入れた教鞭で性器を刺激し、絶頂を迎えるという指導を受けた。この際、女子生徒たちは、顔を赤らめながらも、浅ましく膝を折り立て、担当教師が持つ教鞭に、クリトリスやヴァギナの粘膜を擦りつけた。喘ぎ声を果てしなく上げた後、女子生徒たちが席に戻った。その理由を男子生徒に問うたところ、男子生徒は「授業中にオナニーを続けるよう指示された」と、担当教師の前で恥態を晒し続けた。

### 真由美の緊急公開身体検査

二日前の授業中、男子のひとりから、真由美ちゃんへの体調がよくないのではないかと、申告があった。そこで、真由美ちゃんの体調を確認するために、授業を一時中断して、緊急身体検査を実施することになった。

「自分は体調が悪くはない」と主張する真由美ちゃんだったが、自覚症状がないだけという可能性があるので、第三者の手による確認が必要であるとの判断から、教師立会いのもと、教室内での公開身体検査が行われた。真由美ちゃんによつて、担当教師と男子生徒によつて、教室の上に乗せられ、検査に不必要な制服を全て脱がされた全裸状態で検査されることになった。途中、真由美ちゃんが検査を拒否して暴れたため、担当教師の許可のもと、両膝と手首をロープで縛り、うつ伏せでお尻を持ち上げる格好で固定した。その状態で、クラスのみんなに見るようになり、陰唇を開き、ペナルティで中を照らしながら、真由美ちゃんの身体の様子を確認していった。側の間々まで、丹念に検査していった。併せて、体温を測るために、お尻の穴に体温計を挿入して、直腸温を測定した。検査の所見によれば、膣壁から子宮口まできれいな健康色で、Gスポットのざらつきも良好かつ敏感な反応を示すほどであった。しかし、検査中に不謹慎にも性器を濡らしたため、脱脂綿で性器内の愛液を丹念に拭き取る作業が長時間に渡り続けられ、結局残りの授業時間である、十五分間、検査は継続された。



写真：公開身体検査で性器を検査される真由美ちゃん

### 一年生女子生徒 初めての豆吊り訓練を体験

一年生の女子生徒が、入学してから初めてになる豆吊り訓練を体験した。これは、例年の恒例行事であり、入学間もない一年生に、聖女学園の女子生徒がこれからさまざまな刺激を受けることにもなるクリトリスを、鍛えてもらうという意味がある。本来、罰則などであるが、この訓練は、特に罰などとは関係なく、一年生女子生徒全員が受けることになった。一年生女子生徒は、午後の授業が終了した後、全員体育館に集合させられ、その場で制服を全て脱いだ全裸になった。体育館の真ん中に並べ、座らされた。そのまま不正行為を防ぐために両手を背中で拘束された後、担任教師の手によって、ひとりひとりクリトリスに糸を結ばれ、その糸が天井の梁を通して床面すれすれまで下ろされた。



写真：豆吊り訓練を受ける美奈ちゃん

### 乃梨香ちゃん自己ベスト更新

三年生の乃梨香ちゃんが放課後に行っている走り高跳びの自主練習において、これまでの自己ベスト記録一六二センチメートルを三センチ超える一六五センチメートルの跳躍に成功した。乃梨香ちゃんは全国クラスのアスリートで、特別に放課後の練習を認められている。ただし、練習中は男子生徒に邪魔されない代わりに、下半身は靴下とシューズのみで練習することが条件となっていた。乃梨香ちゃんの飛び跳ねるお尻と割れ目は、その日も太陽の光を浴びて輝いていたという。特に高跳びでパーを超えてマツトに着地する瞬間は、股間が最も無防備になる瞬間ということで、鑑賞する男子生徒たちの注目の的となっていた。



写真：高跳び練習中の乃梨香ちゃん